

8月15日

鎮西町波戸港にて満潮時に開催

波戸海中盆綱引き





■祭りの概要・歴史

太閤秀吉の朝鮮出兵時に兵士の士気を高めるために、船の舳い綱(もやいづな)による海中での綱引きが始まった。その後時代の流れと共に綱引きの目的が変わり、当時流行していた疫病を祓う(はらう)目的として、疫病除けの綱引きへと変わっていった。

昭和に入り綱引きを中止すると再度伝染病が流行する。伝染病に負けないように綱引きを再開する事となった。毎年綱を作り変える事が伝統だったが、人材不足で困難となり、平成16年に宝くじの助成金により強固な綱を作り現在に至る。

武将同士で対戦していた海中盆綱引きだが時代の流れにより竹之内と前田という二つの区ごとの対戦へと姿を変え、現在は紅白に分かれて勝負を行う流れとなっている。

勝負の勝ち負けにもきちんと意味があり、豊作や豊漁等の祈願がされている。

海中盆綱引きの特徴



■ 海中盆綱引きの特徴

秀吉に縁のある地『名護屋』(なごや)にて伝統ある海の祭りが今も受け継がれている。海中盆綱引きは海の中で綱引きをするという珍しい祭りで、全国的にみても稀少な祭りといえる。海の中で波がうねりをあげる攻防戦は見応えがあり、見ているものを熱狂の渦へと誘い込む。毎年お盆の日の満潮時に開催されており、海の男達ならではのこだわりが感じられる。海中盆綱引きは守るべき文化の一つであり、歴史や伝統、先人達の想いを後世に残していきたいという強い想いをもって祭りに臨んでいると担い手は語る。

現在は耐久性のある素材により新調された大綱だが、昔は13日の夜から藁を編み、夜通しで大綱を手作業で作成していた。巨大な大綱は祭り終了後に海に放流され、腐らせることで自然に海に還すようにしていたという。

元々が藁(わら)でできていた為、自然に帰化するのは簡単であったが、大綱を作る青年団の負担は重く、次第に遠方の若者が祭りの際に帰ってこなくなった。

人手不足が危惧(きぐ)され始めた事もあり、新しい大綱の作成にいたったという。新しい大綱は現在の技術で作られている為15年程使える頑丈な物となっている。

～担い手～



■祭りが繋ぐ地域の交流

8月15日に開催される海中盆綱引きは13日から準備が始まる。以前は綱作りも行っていたが現在は行っておらず男達の綱引きは情報収集から始まる。男達は自分達の日と耳を頼りに地域の住民から情報を集め、何処の誰が帰ってきているのかを確認し町の掲示板に書き出す。

帰省情報を集める目的と同時に、地域との交流も行われている。各家庭をこつこつと回る事で普段交流がない家庭や、遠方に出ており中々会えない人と接する機会につながり、現在では大切な町内のコミュニケーションの場となっている。海中盆綱引きの大綱は紅組と白組だけではなく、区民全体を温かく繋いでいる。

■武士の心を継承する子供達

かつて武将達が引きあつた綱も現在では子供達も引く事が出来る。海中盆綱引きには大人綱と子供綱の二つの行程に分かれており子供綱は大綱に「こづけ」とよばれる手綱をつけて行われる。

子供綱に限り女児の参加も認められており、男女合わせての対抗戦となっている。ちなみに子供綱には飛び入り参加も認められており、参加する子供達も多い。

～祭りに対する熱き想い～

担い手の声 (担い手代表: 山下 勝治氏との対談)

●祭りの現状

元々、武将同士で争われていた綱引きという事もあり、当時はかなり血の気の多い祭りでもあったらしく、喧嘩なども珍しくはなかった。時代の流れが進む中で喧嘩などは減っていき、現在は海中での綱引きの勝敗のみで白黒をつける海の男達の真剣勝負の場となっている。

参加者は年々減少傾向にある為、毎年作る藁綱を止めたり、子供綱の参加者に地区外の子供達を招待し、文化と伝統を守っていく努力をしている。

●海中盆綱引の見所

綱 大綱がうねるがぶり

お互いの攻守が激しくぶつかり合う時、大きな綱は上下にうねりを上げ引手を上下に振り回す。

波 男達を振り回す荒波

男達が引き合う綱は大きなうねりを上げ水面にも大きな影響を与える。

上下に揺れる荒波は引手達を飲み込んでいき、男達の体力を奪っていく。水面のうねりと引手の攻防がマッチした瞬間、最高のパフォーマンスを発揮する。

●海中盆綱引 今後の課題

大人綱の参加者が少なく年々担い手の減少に悩まされている。現在は他地区の参加者を募る方法や、事前受付による他県他市の参加等も考えており担い手の存続に力を入れている。



本資料の詳細情報

●祭り正式名称
「海中盆綱引き」

●開催場所
佐賀県唐津市鎮西町波戸 波戸岬にて開催

●開催日程
毎年8月15日（お盆）
※時間に関しては「満潮時」に行われるため、要当日確認

●祭りの起源
不明：

太閤秀吉の朝鮮出兵時に兵士の士気を高めるために、船の舳い綱による海中での綱引きが始まったと伝えられている。その後時代の流れと共に綱引きの目的が変わり、当時流行していた疫病を祓う目的として、疫病除けの綱引きへと変わっていった。

●取材協力（平成25年度担当）
地元実行委員 会長 山下 勝治氏 及び 他数名